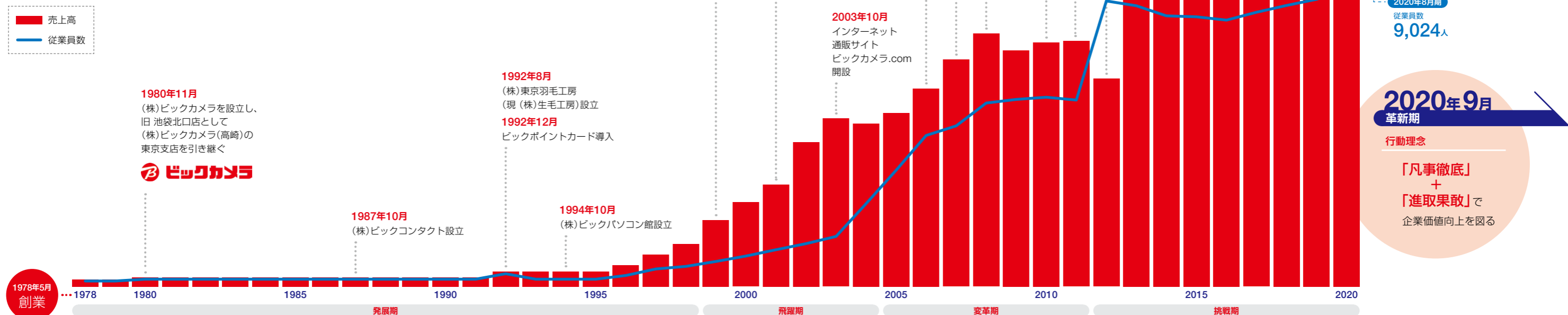


価値創造の歴史

ビックカメラは、「専門性と先進性で、より豊かな生活を提案する進化し続ける“こだわり”の専門店の集合体」を目指して、音響映像商品、情報通信機器商品、家庭電化商品、ゲーム・時計・玩具等の取扱商品の拡大をするとともに、「都市型」×「駅前」×「大型」を中心とした店舗出店やインターネット通販事業の拡大を進めてきました。またロードサイド型店舗を運営する株式会社コジマやリユース事業・サポートサービス事業を強みとする株式会社ソフマップ等と提携し、グループの強化にも努めてきました。

今後もビックカメラグループは、「お客様第一主義を実践し、最高のサービスをお客様に提供することで社会に貢献する」との経営理念のもと、社会貢献と業績向上の両立を目指すとともに、環境配慮企業のトップランナーとして社会的な責任を果たしつつ、企業価値の更なる向上を目指していきます。

売上高推移と従業員数推移(連結)



1978年 発展期

お客様第一主義のもとカメラ専門から家電・パソコン等取扱商品を拡大

創業当初はカメラ専門店からスタートしたビックカメラは、家電・パソコン等多様な商品を取り扱うようになり「こだわりの専門店の集合体」の礎を築きました。1992年にはお客様第一主義のもとビックポイントカードを導入しました。



1999年 飛躍期

「都市型」×「駅前」×「大型」を中心とした店舗出店、インターネット通販事業をスタート

「都市型」×「駅前」×「大型」を中心とした店舗出店とインターネット通販事業をスタートし、事業を拡大しました。2001年にはリサイクル事業を行う(株)フューチャー・エコロジーを設立しました。



2005年 変革期

パソコン中古買取販売の(株)ソフマップを子会社化、環境省「エコ・ファースト制度」第1号に認定

2006年2月に(株)ソフマップを子会社化し事業を拡大、8月にはジャスダック証券取引所に株式を上場しました。2008年には業界における環境先進企業であることを環境省が認定する「エコ・ファースト制度」の第1号に認定されました。



2012年 挑戦期

郊外型家電量販店の(株)コジマを子会社化、社会貢献と業績向上の両立を目指す

郊外型店舗を展開する(株)コジマを子会社化し、更に事業を拡大。ビックカメラ女子ソフトボール高崎の創部や保育園「Bic Kids」開設、「プラチナくるみん」認定取得、「健康経営優良法人2020(ホワイト500)」認定等、業績向上と社会貢献の両立を目指しています。

